

東京生まれにこだわって、誰もが知っている名文具の、知られざる開発秘話や進化の歴史についてご紹介します。  
目の前の見慣れた文具が、ちょっと愛しい「仕事の相棒」になるかも？

## トンボ鉛筆 MONO消しゴム

(1969年生まれ)

高級鉛筆のオマケが  
たちまち大ヒット商品に

イギリスの化学者、プリーストリーが、天然ゴムで鉛筆の文字が消せることを発見したのは1770年のこと。日本では明治の文明開化に伴い、さまざまな文具が輸入されるようになった。まもなくして、鉛筆や消しゴムは国内で生産されるようになる。しかし、その当時、天然ゴムは完全輸入だったため、安定的な生産が難しく、各メーカーが天然ゴムに代わる原料での消しゴムづくりに注力した。そうして1950年代になって開発されたのが、現在では主流のプラスチック消しゴムである。

1967(昭和42)年、トンボ鉛筆は、製図・テッサンに適した高級鉛筆の販売を開始。ギリシャ語で「唯一の」を意味する「MONOS」に由来し、「MONO」



と名づけられたその鉛筆には、1ダースに1個、プラスチック消しゴムがサービス品として付けられた。鉛筆への高評価もさることながら、「おまけの消しゴムがよく消える」と話題に。その後、多数のユーザーによる強い希望で、1969(昭和44)年、「MONO消しゴム」として商品化された。

お馴染みの青・白・黒のケースを考案したのは、同社のアートディレクターだった井出尚氏。世界の国旗にインスパイアされたという。マイナーチェンジはあったものの、基本デザインは当時のままだ。その結果、2017(平成29)年、MONO消しゴムの三色ストラップは、日本で初めて色彩による商標権登録が認められた。

消すシーン別に細かいラインナップがあるMONO消しゴム。多くのユーザーに愛される理由は、その誕生然り、ユーザーに寄り添う姿勢にあるといえそうだ。



MONO消しゴムにはスタンダードタイプだけでも5サイズあるほか、細部の修正に便利なペン型の極細MONO消しゴムなど、豊富なラインナップがそろう。  
株式会社トンボ鉛筆 <http://www.tombow.com/>

- 2 ■ 東京生まれの名文具／トンボ鉛筆 MONO 消しゴム
- 3 ■ 巻頭インタビュー 私流、未来のつくりかた／大村 智さん 化学者
- 6 ■ Let's enjoy 課外授業！／感動のチョコレートアート
- 8 ■ すこやか生活アーカイブ／「血管力」をアップして、最適な体型をつくる

かがやき **秋**  
2017 Autumn  
No.546

### ■ 共済組合からのお知らせ

- 10 支部運営審議会の報告／  
組合員・被扶養者の皆さまへ
- 11 特定健康診査・特定保健指導のご案内
- 12 器官別健診のご案内(組合員の皆さまへ)
- 13 森林セラピーのご案内
- 14 平成28年度決算のあらまし
- 16 高齢受給者の高額療養費制度の見直し
- 17 被扶養者がいる組合員の皆さまへ
- 18 育児休業を取得される方へ
- 20 育児休業、介護休暇を取得される方へ
- 21 産前産後休業中の保険料(掛金)免除について
- 22 傷病手当金の支給について
- 23 障害年金の請求をお考えの方へ
- 24 「ねんきん定期便」のご紹介
- 26 貸付事業のご案内
- 28 ジェネリック医薬品
- 29 かがやきメイト通信

### 31 ■ クイズ【世界のことわざ】

読者プレゼント  
[泉屋物産店 鮎のリエット・  
白熟クリーム]

